平	成 2	27	年	9	月	9	日
地)	震 調	査	研究	土推	進	本	部
地	震	調	査	委	Ē		会

2015年8月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

目立った活動はなかった。

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

○ 8月14日に十勝地方中部の深さ約80km でマグニチュード(M)5.1の地震が 発生した。この地震の発震機構は北北西-南南東方向に張力軸を持つ型で、太平 洋プレート内部で発生した地震である。

(2) 東北地方

- 8月3日に福島県沖の深さ約50kmでM5.1の地震が発生した。また、5日にも M5.0の地震、14日にもM5.1の地震がほぼ同じ深さで発生した。これらの地震の 発震機構は西北西−東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸 のプレートの境界で発生した地震である。
- 8月24日に福島県沖の深さ約15kmでM5.1の地震が発生した。この地震の発 震機構は南北方向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレートの地殻内で発生した 地震である。

(3)関東・中部地方

- 8月6日に茨城県沖〔茨城県北部〕の深さ約55km で M5.2の地震が発生した。 この地震の発震機構は西北西−東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プ レートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 8月17日に硫黄島近海でM6.1の地震が発生した。この地震の発震機構は北東 - 南西方向に張力軸を持つ正断層型で、太平洋プレート内部で発生した地震であ る。
- 東海地方のGNSS観測結果等には、東海地震に直ちに結びつくとみられる変 化は観測されていない。

(4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

- (5) 九州・沖縄地方
- 8月17日に種子島近海の深さ約5kmでM5.0の地震が発生した。この地震の 発震機構は北北東-南南西方向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレートの地殻 内で発生した地震である。
- 8月26日に日向灘の深さ約35kmでM5.2の地震が発生した。この地震の発震 機構は西北西-東南東方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発 生した地震である。

- (6) その他の地域
- 8月13日に台湾付近(与那国島の南西約90km)〔与那国島近海〕でM5.7の地 震が発生した。この地震の発震機構は南北方向に圧力軸を持つ型であった。
- 補足
 - 9月2日に鳥島近海で M6.1 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方 向に圧力軸を持つ逆断層型であった。
 - 9月4日に奄美大島北東沖で M5.3の地震が発生した。この地震の発震機構は 西北西−東南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。
 - 9月8日に駿河湾の深さ約25km でM4.6の地震が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型(速報)で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。
 - 注: 〔〕内は気象庁が情報発表で用いた震央地域名である。 GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般をしめす呼称である。

2015年8月の地震活動の評価についての補足説明

平成 27 年 9 月 9 日

地震調查委員会

1. 主な地震活動について

2015 年 8 月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上および M5.0以上の地震の発生は、それぞれ 80回(7月は 92回)および 16回(7月は6回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は1回(7月は1回)であった。

(参考) M4.0以上の月回数73回(1998-2007年の10年間の中央値)、
 M5.0以上の月回数9回(1973-2007年の35年間の中央値)、

M6.0以上の月回数1.4回、年回数約17回(1924-2007年の84年間の平均値)

2014年8月以降2015年7月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

—	青森県東方沖	2014年8月10日	M6.1	(深さ約 50km)
—	栃木県北部	2014年9月3日	M5.1	(深さ約5km)
—	茨城県南部	2014年9月16日	M5.6	(深さ約 45km)
—	長野県北部	2014年11月22日	M6.7	(深さ約5km)
—	徳島県南部	2015年2月6日	M5.1	(深さ約 10km)
—	三陸沖	2015年2月17日	M6.9	
—	岩手県沖	2015年2月17日	M5.7	(深さ約 50km)
—	与那国島近海	2015年4月20日	M6.8	
—	鳥島近海	2015年5月3日	M5.9	
—	宮城県沖	2015年5月13日	M6.8	(深さ約 45km)
—	奄美大島近海	2015年5月22日	M5.1	(深さ約 20km)
—	埼玉県北部	2015年5月25日	M5.5	(深さ約 55km)
—	小笠原諸島西方沖	2015年5月30日	M8.1	(深さ約 680km)
—	網走地方	2015年6月4日	M5.0	(深さごく浅い)
—	岩手県内陸北部	2015年7月10日	M5.7	(深さ約 90km)
—	大分県南部	2015 年 7 月 13 日	M5.7	(深さ約 60km)

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 東北地方太平洋沖地震に伴う地震活動及び地殻変動について

 東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した M4.0 以上の地震の発生数は、東北地方太平洋沖地震後の約1年間と比べて、その後の1年間(2012年3月~2013年2月)では5分の1以下、2年後からの1年間(2013年3月~2014年2月)では10分の1以下、3年後からの1年間(2014年3月~2015年2月)では15分の1以下にまで減

少してきている。

GNSS連続観測によると、東北地方から関東・中部地方の広い範囲で余効変動と 考えられる地殻変動が引き続き観測されている。地殻変動量は、東北地方太平洋沖地 震直後からの約1ヶ月間で、最大で水平方向に30cm、上下方向に6cmの沈降と5cm の隆起であったものから、最近1ヶ月あたりでは水平方向、上下方向ともにほぼ1cm と小さくなっているが、地震前の動きには戻っていない。

2004 年に発生したスマトラ北部西方沖の地震(Mw9.1)では、4ヵ月後に Mw8.6、約2年半後に Mw8.5、約5年半後に Mw7.5、約7年半後に海溝軸の外側の領域で Mw8.6 の地震が発生するなど、震源域およびその周辺で長期にわたり大きな地震が発生している。

余震活動は全体として徐々に低下している傾向にあると見てとれるものの、依然と して東北地方太平洋沖地震前の地震活動より活発な状況にあることや、他の巨大地震 における事例から総合的に判断すると、今後も長期間にわたって余震域やその周辺で 規模の大きな地震が発生し、強い揺れや高い津波に見舞われる可能性があるので、引 き続き注意が必要である。

(4)関東・中部地方

--「東海地方のGNSS観測結果等には、東海地震に直ちに結びつくとみられる変化 は観測されていない。」:

(なお、これは、8月31日に開催された定例の地震防災対策強化地域判定会における見解(参考参照)と同様である。)

(参考)最近の東海地域とその周辺の地殻活動(平成27年8月31日気象庁地震火山部) 「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくとみられる変化は観測していません。

1. 地震の観測状況

浜名湖周辺のフィリピン海プレート内では、引き続き地震の発生頻度の低い状態が続いて います。

8月24日から、長野県南部でプレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)を 観測しています。

2. 地殻変動の観測状況

GNSS観測及び水準測量の結果では、御前崎の長期的な沈降傾向は継続しています。 平成25年はじめ頃から静岡県西部から愛知県東部にかけてのGNSS観測及びひずみ観 測にみられている通常とは異なる変化は、現在も継続しています。

また、8月24日から、静岡県及び長野県の複数のひずみ観測点でわずかな地殻変動を観 測しました。

3. 地殻活動の評価

平成 25 年はじめ頃から観測されている通常とは異なる地殻変動は、浜名湖付近のプレー ト境界で「長期的ゆっくりすべり」が発生している可能性を示しており、現在も継続してい ます。

そのほかに東海地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは今のところ得られていません。

一方、上記の深部低周波地震(微動)及びひずみ観測点で観測した地殻変動は、長野県南部の想定震源域より深いプレート境界において発生した「短期的ゆっくりすべり」に起因すると推定しています。

以上のように、現在のところ、東海地震に直ちに結びつくとみられる変化は観測していま せん。

なお、GNSS観測の結果によると「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」によ

る余効変動が、小さくなりつつありますが東海地方においてもみられています。」

(5)近畿·中国·四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

(6) 九州・沖縄地方

九州・沖縄地方では特に補足する事項はない。

参考1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安
① M6.0以上または最大震度が4以上のもの。②内陸 M4.5以上かつ最大震度が3以上のもの。
③海域 M5.0以上かつ最大震度が3以上のもの。
参考2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安
1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
2 「主な地震活動」として記述された地震活動(一年程度以内)に関連する活動。
3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。



2015 年 8 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



※ 矩形は「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」の余震域

・8月17日に硫黄島近海でM6.1の地震(震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0以上の地震、または M4.0以上で最大震度5 弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0以上、または M4.0以上で最大震度5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2015/08/01 00:00 ~ 2015/08/31 24:00



※ 点線は「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す 地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

① 8月14日に十勝地方中部でM5.1の地震(最大震度4)が発生した。

[上述の地震は M6.0以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

8月14日 十勝地方中部の地震



東北地方

2015/08/01 00:00 ~ 2015/08/31 24:00



※ 点線は「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

 ③ 8月中に、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震域内ではM5.0以上の地震が 5回発生した(関東・中部地方も参照)。また、最大震度4以上を観測する地震が2回発生した。

以下の②~⑤の地震活動は、東北地方太平洋沖地震の余震域内で発生した。

- ② 8月3日に福島県沖でM5.1の地震(最大震度3)が発生した。
- ③ 8月5日に福島県沖でM5.0の地震(最大震度3)が発生した。
- ④ 8月14日に福島県沖でM5.1の地震(最大震度4)が発生した。
- ⑤ 8月24日に福島県沖でM5.1の地震(最大震度3)が発生した。

[上述の地震は M6.0以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、 注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の余震活動

2015 年 8 月は、領域 a (「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」の震源域及び海溝軸の東側 を含む震源域の外側)で M5.0 以上の地震は 5 回発生した。また、最大震度 4 以上を観測する地震は 2 回発生した。

2011年3月11日に発生した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の余震活動は次第に少なくなってきているものの、余震域の沿岸に近い領域を中心に、本震発生以前に比べ活発な地震活動が継続している。

領域 a で 2015 年 8 月に発生した M5.0 以上の地震は以下のとおり。

2015年8月に領域 a 内で発生したM5.0以上の地震	
------------------------------	--

発生日時		震央地名	М	Mw	最大震度	発震機構 (CMT解)
08月03日	14時30分	福島県沖	5.1	5.0	3	西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
08月05日	20時56分	福島県沖	5.0	5.0	3	西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
08月06日	18時22分	茨城県沖	5.2	5.1	4	西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
08月14日	05時13分	福島県沖	5.1	5.1	4	西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型
08月24日	14時49分	福島県沖	5.1	4.7	3	南北方向に張力軸を持つ正断層型



(2011年3月1日~2015年8月31日、深さすべて、M≧4.0)
 2011年3月からの地震を薄く、2014年8月から2015年7月の地震を濃く、2015年8月の地震を赤く表示。発震機構はCMT解。



 $\begin{array}{c} 500 \\ 400 \\ (\square) \\ 300 \\ 100 \\ 100 \\ 100 \\ 2011 \\ 2012 \\ 2013 \\ 2014 \\ 2014 \\ 2014 \\ 2015 \end{array}$

東北地方太平洋沖地震(M9.0)後の地殻変動(水平)-1ヶ月-基準期間: 2015/07/19 -- 2015/07/25 [F3:最終解]



東北地方太平洋沖地震(M9.0)後の地殻変動(上下)―1ヶ月―

基準期間: 2015/07/19 -- 2015/07/25 [F3:最終解] 比較期間: 2015/08/19 -- 2015/08/25 [R3:速報解]



成分変化グラフ



期間: 2011/03/12~2015/08/29 JST



期間: 2011/03/12~2015/08/29 JST



cm 100 90 80 70 2011/04/07 M7.2 60 50 40 30 20 10 0 5/1 9/1 2012/1/1 5/1 9/1 2013/1/1 5/1 9/1 2014/1/1 5/1 9/1 2015/1/1 5/1 (6) 福江(950462)→M牡鹿(059071) 南北 基準值: 635351.034m cm 5 0 _5 -10 -15 -20 -25 2011/04/07 M7. -30 -35 -40 -45 -50 9/1 2013/1/1 5/1 9/1 2014/1/1 5/1 5/1 9/1 2012/1/1 5/1 9/1 2015/1/1 5/1 (6) 福江(950462)→M牡鹿(059071) 基準値:-32.658m 比高 cm 48 40 36 32 28 24 20 16 12 .2011/04/07 M7.2

9/1 2012/1/1 5/1 9/1 2013/1/1 5/1 9/1 2014/1/1 5/1 9/1 2015/1/1 5/1

5/1

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動

三隅(950388) -- 山田(950167) 間の成分変位と速度グラフ



平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前後の地殻変動

三隅(950388) -- 矢本(960549) 間の成分変位と速度グラフ



※成分変化率は60日間のデータを1日ずつずらして計算(プロットの位置は計算に用いた期間の中間)

8月3日 福島県沖の地震

震央分布図 (1997年10月1日~2015年8月31日、 深さ0~120km、M≥3.0) 東北地方太平洋沖地震以前に発生した地震を+ 東北地方太平洋沖地震以降に発生した地震を薄い〇 2015 年 8 月の地震を濃い〇で表示 図中の発震機構は CMT 解 50km N=15105 宮城県 今回の地震 2011年7月25日 46km M6.3 2015年8月3日 49km M5.1 દસ 2011年9月19日 $\langle \rangle$ 48km M5.2 38° а \bigcirc 福島県 7.0 0.0 6.0 5.0 2013年5月18日 46km M6.0 2015年8月24日 2015年8月14日 2015年8月5日 4.0 16km 49km M5.1 M5 Ó 379 142°E 141°E 領域 a 内の断面図 (A-B投影) $(M \ge 2.0)$ В А (km) n 2011年7月25日 10 10 20 20 2011年9月19日 30 30 M5.2 40 40 50 50 60 60 70 70 2013年5月18日 80 80 M6. 0 90 90 今回の地震 100 100 2015年8月3日 110 110 M5.1 120 120 N=6898 震央分布図 (1923年1月1日~2015年8月31日、 深さO~120km、M≧5.5) 2011 年 3 月 11 日以降の地震を濃く表示 N=617 50km 「1978年宮城県沖地震」 S @ 宮城県 800 1978年6月12日 00 ૼૼૼૼૼ૽૿ૢૺ૾ૼૺ૿૾ M7.4 0 Ľ 0 今回の地震 0 38° N の震央位置 ംരം Se C • ୍ଦ୍ଧିକ ○ 福島県 0 8 2011年3月11日 9.0 M9.0 37° N 「平成 23 年(2011 年) 8 8.0 東北地方太平洋沖地震」 C 1938年11月5日 1938年11月6日 7.0 85% M7.4 M7. 3 0 6.0 000 οd Q 5.5 42° E 143° E 40

2015 年 8 月 3 日 14 時 30 分に福島県沖の深 さ 49km で M5.1 の地震(最大震度 3)が発生 した。この地震は発震機構(CMT 解)が西北西 -東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太 平洋プレートと陸のプレートの境界で発生し た。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地 震の震源付近(領域b)では、「平成23年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」の発生以前には M4.0以上の地震は2回しか発生していなかっ た。東北地方太平洋沖地震の発生以降は、2011 年7月25日にM6.3の地震(最大震度5弱) が発生するなど、地震活動が活発になってい る。

1923 年1月以降の活動を見ると、今回の地 震の震央周辺(領域 c)では、M7.0 を超える 地震が時々発生している。



領域 b 内のM-T図及び回数積算図

8月5日、14日 福島県沖の地震



2015 年8月5日20時56分に福島県沖の深 さ50kmでM5.0の地震(最大震度3、①)が 発生した。また、2015年8月14日05時13分 に福島県沖の深さ49kmでM5.1の地震(最大 震度4、②)が発生した。これらの地震は発 震機構(CMT解)が、西北西-東南東方向に圧 力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸 のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地 震の震源付近(領域b)では、「平成23年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」の発生以降、地 震活動が活発化しており、M5.0以上の地震が しばしば発生している。

1923 年1月以降の活動を見ると、今回の地 震の震央周辺(領域 c)では、1938 年11月5 日に M7.5の地震が発生し、死者1人、負傷者 9人、住家全壊4棟、半壊29棟などの被害が 生じた。また、この地震により、宮城県花淵 で113cm(全振幅)などの津波が観測された (「日本被害地震総覧」による)。



8月24日 福島県沖の地震

震央分布図 (1997年10月1日~2015年8月31日、 深さ0~120km、M≧3.0) 東北地方太平洋沖地震以前に発生した地震を+ 東北地方太平洋沖地震以降に発生した地震を薄い○ 2015年8月の地震を濃い○で表示



領域 a 内の断面図 (A-B投影) (M≧2.0) В А (km) N76W(A) N104E(B) 10 10 2011年4月26日 20 20 M5.2 30 2011年7月13日 30 40 M5. 3 40 2015年3月27日 M5. 0 50 50 60 60 70 70 80 80 2015年8月14日 90 90 M5. 1 100 100 2015年8月24日 2011年3月11日 110 110 M5. 1 M5.9 120 120 今回の地震





2015 年 8 月 24 日 14 時 49 分に福島県沖の深 さ 16km で M5.1 の地震(最大震度3)が発生 した。この地震は発震機構(CMT 解)が南北方 向に張力軸を持つ正断層型で、陸のプレート の地殻内で発生した地震である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地 震の震源付近(領域b)では、M4.0以上の地 震は発生していなかったが、「平成23年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」の発生以降、M 5クラスの地震が発生するなど、地震活動が 活発になっている。

1923 年1月以降の活動を見ると、今回の地 震の震央周辺では、M7.0 を超える地震が時々 発生している。また、震央付近(領域 c)で は、2011 年4月11日に M7.0の地震(最大震 度6弱)が発生し、死者3人の被害が生じた (総務省消防庁による)。



領域 b 内のM-T図及び回数積算図

関東・中部地方

2015/08/01 00:00 ~ 2015/08/31 24:00



※ 点線は「平成23年(2011年) 東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す 地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

8月6日に茨城県沖でM5.2の地震(最大震度4)が発生した。

情報発表に用いた震央地名は〔茨城県北部〕である。

(上記範囲外)

・8月17日に硫黄島近海でM6.1の地震(震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。

(上記期間外)

- 9月2日に鳥島近海で M6.1 の地震(震度1以上を観測した地点はなし)が発生した (上記範囲外)。
- 9月8日に駿河湾でM4.6の地震(最大震度3)が発生した。

[上述の地震は M6.0以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、 注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]



情報発表に用いた震央地名は〔茨城県北部〕である。

2015年8月6日18時22分に茨城県沖の深さ 55kmでM5.2の地震(最大震度4)が発生した。 この地震は発震機構が西北西-東南東方向に圧 力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸の プレートの境界で発生した。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地 震の震源付近(領域b)は、M5程度の地震が 時々発生している。「平成23年(2011年)東北 地方太平洋沖地震」の発生以降、活動がより活 発になっており、2012 年3月1日には M5.3の 地震(最大震度5弱)が発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震 の震央付近(領域 c)では、M5.0以上の地震が 度々発生しており、このうち、1930年6月1日 に発生した M6.5の地震(最大震度 5)では、が け崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた(「日本被 害地震総覧」による)。



領域 b 内のM-T図及び回数積算図、M≧3.0

気象庁作成

8月17日 硫黄島近海の地震



震央分布図中の吹き出しは以下の地震に付けた。

- ・今回の地震
- ・領域 b 内で M6.5 以上の地震
- ・震央分布図内で M8.0 以上の地震

・震央分布図内で深さが 100km より浅い地震で M7.5 以上の地震

※本資料中、震央分布図に発震機構(CMT解)を示した地震の震源要素とCMT解は気象庁による。その他の地震の震源要素は米国 地質調査所(USGS)による(2015年9月2日現在)。プレート境界の位置はBird(2003)*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, Geochemistry Geophysics Geosystems, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

9月2日 鳥島近海の地震



2015年9月2日00時25分に鳥島近海でM6.1 の地震(震度1以上を観測した地点はなし)が 発生した。発震機構(CMT解)は、東西方向に 圧力軸を持つ逆断層型である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地 震の震央付近(領域 a)では、M6.0以上の地震 が5回(今回の地震含む)発生している。2014 年12月頃から地震活動がやや活発になってお り、2015年2月25日にはM6.1の地震、5月 11日にはM6.3の地震が発生した。

1923 年1月以降の活動を見ると、今回の地震 の震央周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が 時々発生しているが、被害を伴う地震は発生し ていない。1977 年3月30日にはM6.9の地震が 発生している。また、2006 年10月24日の地震 (M6.8、最大震度2)では三宅島で16cmの津 波を観測した。





特段の変化は見られない.

基線図







4/1

4/16

5/1

5/16

6/1

6/16

7/1

7/16

8/1

8/16

3/16

3/1

水準点2595(御前崎市)の経年変化

掛川市に対して御前崎市の沈降の傾向に変化はない.



国土地理院

近畿・中国・四国地方

2015/08/01 00:00 ~ 2015/08/31 24:00





特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

九州地方

2015/08/01 00:00 ~ 2015/08/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

8月17日に種子島近海でM5.0の地震(最大震度3)が発生した。

② 8月26日に日向灘でM5.2の地震(最大震度4)が発生した。

(上記期間外)

・9月4日に奄美大島北東沖でM5.3の地震(最大震度3)が発生した。

[上述の地震は M6.0以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0以上かつ最大震度 3 以上、その他、 注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

8月17日 種子島近海の地震



2015 年 8 月 17 日 20 時 40 分に種子島近海の深さ 7 km で M5.0 の地震(最大震度3)が発生した。こ の地震は、陸のプレートの地殻内で発生した。発震 機構(CMT 解)は、北北東-南南西方向に張力軸を持 つ正断層型である。その後最大震度1を観測する余 震が1回発生した。余震活動はほぼ収まっている。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の 震央付近(領域 a)では、M3.0以上の地震は発生し ていなかった。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震 央周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が時々発生 している。1923年7月13日には、M7.3の地震が発 生し、中種子村で住家小破27棟などの被害が生じ た。1996年9月9日にはM5.8の地震(最大震度4) が発生し、軽傷者1名、住家半壊2棟などの被害が 生じた(「日本被害地震総覧」による)。1996年10 月18日のM6.4の地震(最大震度4)では、種子島 で17cmの津波を観測した。



8月26日 日向灘の地震



9月4日 奄美大島北東沖の地震



2015年9月4日13時49分に奄美大島北東沖 でM5.3の地震(最大震度3)が発生した。この 地震の発震機構(CMT解)は、西北西-東南東 方向に張力軸を持つ正断層型である。

1997年10月以降の地震活動を見ると、今回の 地震の震央付近(領域 a)では、M5.0以上の地 震が度々発生している。2009年10月30日のM6.8 の地震(最大震度 4)では、枕崎で18cmの津波 を観測するなど、鹿児島県と沖縄県で津波を観 測した。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震 の震央周辺(領域b)では、M6.0以上の地震が 度々発生している。1923年には今回の地震の近 傍で、また1995年には喜界島の南東沖で、それ ぞれM6.0以上の地震が数日間に連続して発生 している。1995年10月18日のM6.9の地震(最大 震度5)では、中之島で43cmなどの津波を観測 した。



沖縄地方





特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

8月13日 台湾付近の地震

М

0



震央分布図 (1960年1月1日~2015年8月31日、 深さO~100km、M≧5.5)



情報発表に用いた震央地名は〔与那国島近海〕である。

2015年8月13日23時08分に台湾付近(与那国島の 南西約90km)でM5.7の地震(最大震度3)が発生し た。この地震の発震機構 (CMT 解) は、南北方向に 圧力軸を持つ型である。

2010年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震 央付近(領域a)では今年の4月20日10時42分にM6.8 の地震(最大震度4)が発生したほか、M5.0以上の 地震が時々発生している。



1960 年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周 辺(領域b)ではM6.0以上の地震が時々発生してい る。1966年3月13日に発生した地震(M7.3、最大震 度5)では、与那国島で死者2人、家屋全壊1棟など の被害を生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。 2001 年 12 月 18 日に発生した地震 (M7.3、最大震度 4) では、与那国島で12cmなどの津波を観測した。

